

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト所感

深浦町教育委員会 伊 東 信

円覚寺の歴代住持が蒐集した膨大な量の古典籍は、前弘前大学人文社会科学部渡辺麻里子教授の主導により町民、高校生、大学生が地道に一点一点、紙数数え、採寸、写真撮影などの作業を続けたきた結果、調査カードに記録され、リスト化が終わろうとしています。

平成二十九年にスタートしたこの円覚寺保存調査プロジェクト事業は、深浦町の恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、学生と教員が滞在し地域と交流しながら学び、地域課題へ対応と地域社会の発展に取り組むことを目的として、滞在型学習を実施するため開設された弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの一つとして始まりました。調査が進むにつれ、新しい発見が次々と見つかり、とりわけ聖教類については、中世以降の東国における真言密教の布広を探る極めて貴重な資料だということがわかりました。円覚寺の古典籍は、深浦の魅力ある歴史に新たなページとして加わり、地域社会の発展に貢献した本プロジェクト事業は、エコサテライトキャンパスの本旨に沿う役割を果たしたものと実感しております。

これまでは、多くの人の手により調査を進めてまいりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、例年のように町民や生徒が集まって作業することはできませんでした。十一月一日に実施しました成果報告会につきましても、当初は弘前大学を会場に多くの参加者をお迎えし、末木文美士先生の御講演を拝聴する予定でしたが、感染予防のためオンラインでの配信という内容に変更いたしました。ご参加の方からは、自宅で作業しながら視聴できたという声もあり、また、円覚寺さんにおいては、入館者の待ち時間に視聴いただいたというお話を伺い、オンライン配信での利点というものを思い知りました。

最後に、深浦町の宝とも言えるこの円覚寺古典籍をより多く、地域の人に知っていただき、プロジェクト事業がますます発展し、保存活動が進展し、地域社会が活性化するように協力していきたいと思っています。